

SVG普及への期待

g - コンテンツ流通における
無償GISソフトウェアの必要性

三重県 政策部 情報政策室 地域情報化グループ
主査 山口 成大

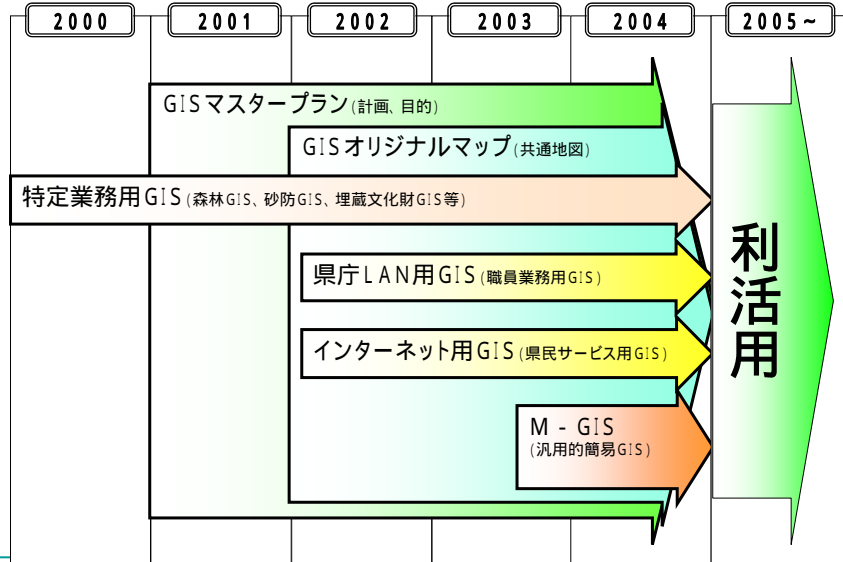
gis@pref.mie.jp

三重県では

1. 早くからGISを行政事務や、住民サービスに活用してきた。
2. 簡易GISの無償提供により、GISユーザーの裾野を広げた。
3. 無償ツールの提供や標準データ交換規格(G-XML)を採用するなど、コンテンツ流通のしくみを形成した。

gis@pref.mie.jp

取り組み経緯

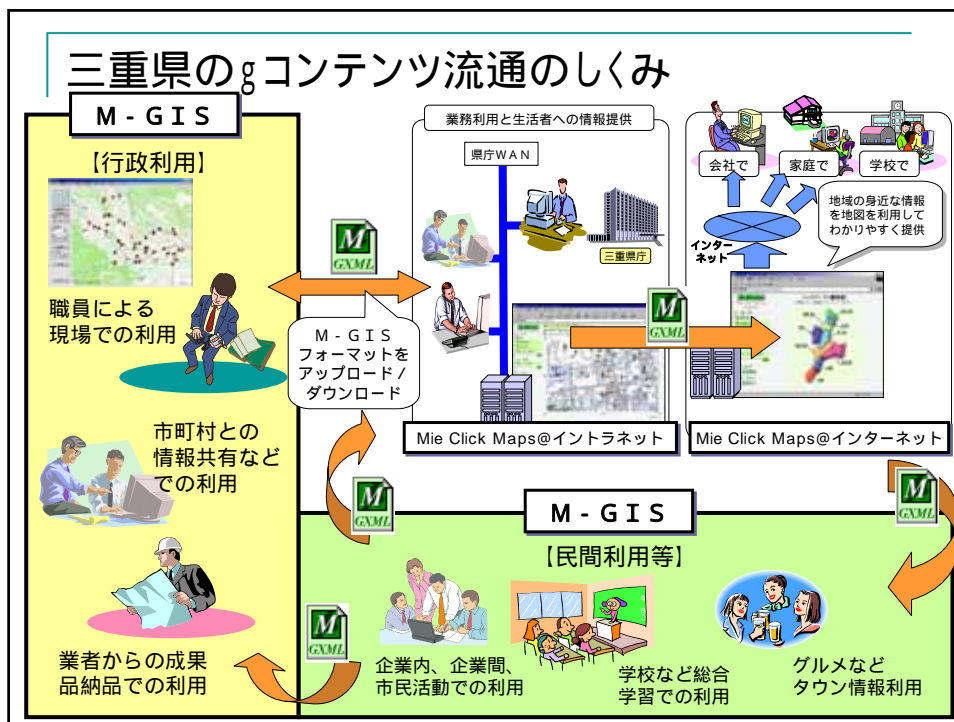


gis@pref.mie.jp

三重県の3つのGIS

	イントラネットGIS (2002)	インターネットGIS (2002)	M-GIS (2003)
名称			
目的	県庁職員が台帳管理、情報共有等のために利用するためのシステム	県庁から県民、企業等に対し、行政情報を地図を利用してインターネットで公開提供するためのシステム	プログラムと地図データをダウンロードして、誰もが自分のパソコンで利用できるシステム(無料)
実績	すべての一人1台PCで利用可 登録件数:約63500件	アクセス数:約118万件/H19 登録件数:約39000件	ダウンロード数:13,600件超 (H19.1現在、増加中)
利活用	道路施設などの施設管理、開発許可箇所等の情報管理などで利用	公共事業入札箇所、イベントなどの情報をホームページとリンクして毎日更新	通学路のヒヤリマップ、NPOのバリアフリーマップ、地域の商店街マップなどで利用
フォーマット	JIS規格 X7199:G-XMLを採用		
利用者	職員	登録・閲覧・共有	
	市町村		
	企業	利用不可	閲覧のみ
	県民		登録・閲覧・共有

gis@pref.mie.jp



振り返ってみると・課題は

1. コスト

GISシステムを構築するには、高額なGISエンジン、DBソフトなどが必要。さらにランニングコストも高額。

2. 提供できる情報に限界

1台のサーバ(GISエンジン)から配信される特定(主題、形式)のコンテンツしか利用できない。

3. まだGISは見るだけのツール

GISソフトの保有率が著しく低く、利用者はコンテンツを簡単に登録することができない。利用が広がらない。

自治体からみたSVG

	現状のGISサービス	SVGによるGISサービス
コスト	サーバ本体、GISエンジン、WEBサーバソフトなどの構築費や、日々の運用費用が必要 大	ビューソフトで利用できるため、ホームページサーバなどの既存のWEBサーバにSVGデータを格納すれば利用できるため低コストで利用可能 小
特徴	一つのGISサーバからの特定の情報しかを利用することができない、 一つ	ローカルPCや複数のサーバから多種多様な情報を重ね合わせて利用することができる。 多
標準化	GISエンジン毎に、データフォーマットが異なるため、各GISでのデータの相互が課題となっている。 ×	SVGは、W3Cにおける勧告や、ISOによる地理空間符号化の規格として予定されているため、標準化されたデータとして利用できる。
拡張性	GISエンジンに依存するため、表示内容の変更などでも、専門技術者によるカスタマイズが必要。 低	XMLベースの記述によるSVG地図の配信であるため、標準的なWeb技術で多彩な表現が可能 高
囲い込み	高	低

gis@pref.mie.jp

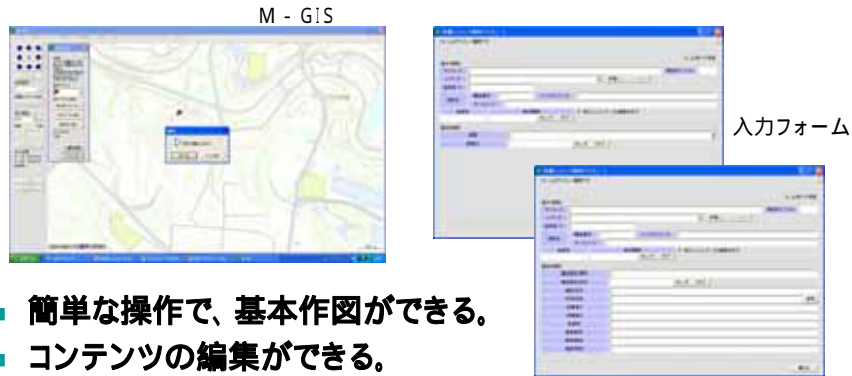
SVGビューワを使ってみると



Powered by SVGMapコンソーシアム

gis@pref.mie.jp

実際にはこんな機能も必要。



- 簡単な操作で、基本作図ができる。
- コンテンツの編集ができる。
- 属性項目の自由度の確保と、入力フォーム
- 多形式への変換出力(互換性)

操作性の向上の中で、是非検討を！

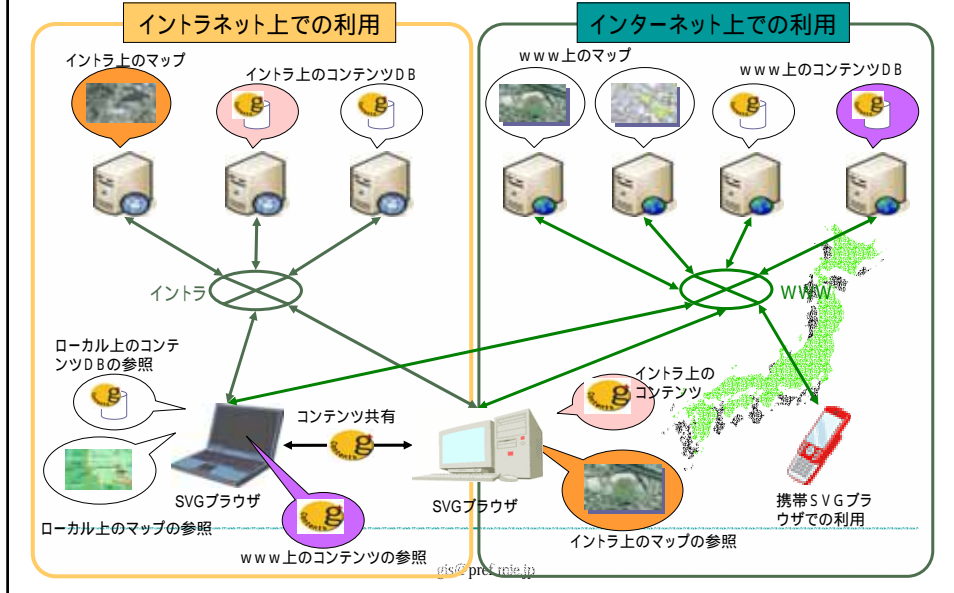
gis@pref.mie.jp

SVGビューア等に期待すること。

- 編集ツールの提供
 - 簡易なエディターの整備(無償を期待)
 - 誰もが作成・編集
- オープンな開発環境の維持
 - 自由なカスタマイズ
- 誰もが利用できる環境
 - 多くの人がマッシュアップできるように敷居を下げる工夫が必要
- 利用する地図データ、コンテンツの提供
 - 多くのサイトから

gis@pref.mie.jp

将来はこうなっている？



M-GISのダウンロードは
<http://www.m-gis.pref.mie.jp/>

ご静聴ありがとうございました。

gis@pref.mie.jp